

ローカル線で行く！ フーテン旅行記 3

ー夏休みに乗りたいローカル線ー

岡山大学 工学部 機械工学コース 助教

大西 孝



専門は機械加工（研削）。主に円筒研削や内面研削を対象として、工作物の熱変形や弾性変形に伴う精度の悪化を防止する研究を進めている。趣味は列車を使用した旅行（47 都道府県を踏破済）。

はじめに

いよいよ夏休みが始まりました。岡山大学の組合だよりに連載している旅行記では、季節にあわせた記事を提供するように心がけていますが、夏休みの時期に発行される号にはご家族連れの旅の参考になりそうな路線を紹介するよう、特に注意を払っています。今回は、夏休みに乗りたいローカル線を取り上げた記事をご紹介します。

1. この夏は漫画列車に乗ろう！ 山陰本線 / 津山線

日本が世界に誇る多彩な漫画。作者や作品にゆかりのある町の観光振興に注目され、以前ご紹介した境線の「妖怪列車」や JR 四国の「アンパンマン列車」など、様々な漫画列車が走り話題を集めています。今回は、こ

の夏（※組合だより掲載時の2013年夏）に中国地方で乗れる漫画列車を2つご紹介します。

最初にご紹介するのは、鳥取県の山陰本線を走る「コナンイラスト列車」。

鳥取県北栄（ほくえい）町出身の青山 剛昌 氏の代表作「名探偵コナン」に登場するキャラクターが車体一面に描かれ、主に鳥取と米子を結ぶ快速列車で使用されています。鳥取県は「まんが王国とっとり」なるキャッチフレー



「コナンイラスト列車」：主に鳥取と米子の間の山陰本線で走っています。
2015年4月にはデザインが異なる第2号も誕生。

ズのもと、県内出身の著名な漫画家にちなんだ観光PRを積極的に行っており、北栄町には「青山剛昌ふるさと館」が建設され賑わいをみせています。このふるさと館から、徒歩約20分の場所にある由良（ゆら）駅では、入口の駅名板の上に主人公



「青山剛昌ふるさと館」：道の駅にも隣接。
漫画でお馴染の黄色い車も停まっています。



“CONAN STATION”こと由良駅：駅名板の上にご注目

のコナンが鎮座し、駅前にはコナンの銅像や“CONAN STATION”と書かれた記念撮影用のボードが設置され、まさに「コナンの駅」にふさわしい佇まいです。

もう一つは岡山県の「NARUTO 列車」。奈義町出身の漫画家、岸本 斉史 氏のヒット作「NARUTO ーナルトー」にちなみ、同作品のキャラクターが描かれた2種類の列車が「美作国建国1300年記念事業」の一環として、2014年3月末まで津山を中心に運行されます。



「NARUTO 列車」：2両編成のものは、主に津山線（岡山～津山）で運行され、頻繁に岡山駅まで顔を出していました。残念ながら2014年3月で運行を終了しました。

2両編成の列車は主に津山線で運行され、岡山駅にもしばしば顔を見せます。2両それぞれに異なったキャラクターが描かれ、見て楽しい車両に仕上がっています。

さらに1両で走る小型の「NARUTO 列車」も用意され、こちらは主に県北の因美線（津山～智頭）や姫新線（新見～津山～佐用）で運行されています。

「ドラえもん」世代の私には、こちらの漫画も馴染みが薄いですが、それでもカラフルな車体を眺めていると楽しくなりますし、これが



石積みホームや草生したローカル線の線路と「NARUTO 列車」の対比が面白いです。写真を撮るお客さんの姿も。（岡山県美作市の姫新線 美作江見駅にて踏切から撮影）

ローカル線の活性化につながるのであれば、嬉しいことです。なお、ご紹介した漫画列車の運行予定はホームページで公開されていますので、お目当ての列車の時刻は簡単にわかります。今年の夏は、思い出づくりに漫画列車の旅はいかがでしょう。

※「NARUTO 列車」は2014年3月末で引退しており、現在は運行していませんので、ご注意ください。「コナンイラスト列車」は2本に増え、山陰本線を中心に、引き続き運行されています。

(岡山大学職員組合 組合だより 165号より再掲)

2. かつての軍港に思いを馳せて！ 呉線

2005年に公開された映画「男たちの大和」で、戦艦大和に注目が集まりました。同じ年に広島県呉市に開館した「大和ミュージアム」こと呉市海事歴史科学館にも多くの人々が足を運んでいます。今回は、戦前に軍港として栄えた呉へ向かう呉線をご紹介します。

呉線は広島県海田市駅（かいたいち、広島駅から3つ東にある駅）から三原駅の間を、瀬戸内海に沿って走ります。重要な軍港都市である呉から広島を結ぶために、海田市から呉の間は1903年（明治36年）に開通した歴史のある路線です。その後、1935年（昭和10年）に全線が開通し、戦前は重要路線として、多くの急行列車が行き交いました。戦後も1975年（昭和50年）ころまでは特急や急行が走っていましたが、今では完全に地域の足となり、広島から呉を結ぶ快速列車と、普通列車が運行される路線になりました。



呉線の車窓から眺める瀬戸内海の島々。三原を出てしばらくの間は、海が車窓の間近に迫ってきます。

呉を訪れる場合、広島まで新幹線で行き呉線へ乗り継ぐのが最速の経路で、広島から呉までの区間は運行回数も多く確保されています。一方で呉から三原の間を走る東側の区間は、1時間に1本程度しか電車が来ず、完全にローカル線となっているものの、三原駅から途中の竹原駅にかけては瀬戸内



途中の駅で列車の行き違い待ち：ローカル線らしくらぬ広い構内と長いホームが戦前は幹線であった証。

できそうです。これは戦前の幹線だったころの名残で、長いホームにちょっと短い編成で停車する電車というのも、呉線ならではの光景です。

呉に着くと、駅の南側つまり海側へ歩けば大和ミュージアムがありますが、その途中で西側を見ると、巨大な潜水艦が目に入ります。周りの建物と比べると、普段見る機会の少ない潜水艦の大きさに圧倒されます。これは海上自衛隊で



都会の通勤電車のようなロングシートから眺める瀬戸内海と島影：呉より東側の区間では通学時間を除くと乗客もまばらです。

海の間際を走るため、窓いっぱい広がる瀬戸内の景色を堪能できます。この区間を走る電車にはロングシート（窓に背を向けて座る長い座席）の車両も使われており、都会の通勤電車のような車内と車窓に広がる美しい海の対比も新鮮です。東側の区間を走る電車の多くが2両か3両編成ですが、途中駅のプラットフォームは非常に長く10両程度の列車でも停車



呉駅の南に鎮座する潜水艦：かつては海上自衛隊で実際に運用されていたもので、陸揚げされた姿は周囲の建物よりも大きく、目を引きまします。

活躍していた「あきしお」という潜水艦で、2004年（平成16年）に引退し、現在は広報施設として艦内が公開されています。隣接する建物では、海上自衛隊の歴史や掃海技術（水中に設置された機雷を除去する技術）が詳しく説明されており、現在の海上自衛隊の活動がよく理解できます。

大和ミュージアムでは、大和をはじめとした戦前の造船技術が、現在の様々な身近な製品の開発や製造に生かされていることが分かります。同時に



大和ミュージアムにある戦艦大和の模型：実物の10分の1の大きさですが、25mプールよりも長く、圧倒されます。

大和の乗員の手紙や特公兵器「回天」（いわゆる人間魚雷）なども展示されており、先の大戦を思うと神妙な気持ちになります。

この夏は、歴史の香りのする呉線の旅はいかがでしょうか？海を見ながら、かつての軍港に思いを馳せれば、色々なことが頭に浮かぶことと思います。

（岡山大学職員組合 組合だより179号より再掲）

おわりに

今回は夏休み特集ということで、夏のご旅行に良さそうな記事を2つ選んでみました。実際にこの記事は、1年の間を空けて掲載されています（岡山大学職員組合の組合だより165号は2013年7月、同179号は2014年8月に発行）。組合だよりへの初回掲載当時と2015年の夏現在で変わっているところもありますが、初回掲載時の雰囲気を大事にするために写真や文章は当時のままとして、変更点は注釈で記載しております。組合だよりが単なる職員組合のニュースではなく、組合だよりをご覧になる大学の教職員の皆さんに親しまれる読み物であってほしいと思い、特に夏休み期間には旅行の計画に役立ちそうなところを選んでご紹介しているという意図が伝われば幸いです。